

## 「南方海域研究センター」の発足にあたって

鹿児島大学南方海域  
研究センター長・教授 中尾 佐助

鹿児島大学南方地域総合研究センターは、学内措置により昭和54年11月に設置され昭和55年4月から具体的活動を開始した。出版活動としては、同年度中に『南総研だより』を3報、『南総研紀要』第1巻を出版した。

昭和56年4月から文部省令により、新しく「南方海域研究センター」の名称のもとに、学内共同教育研究施設として正式に発足することになった。当初の教官は教授2、助手1が認められ、これをもって、ささやかながら新研究センターが出発することになった。

南方海域とは、具体的にミクロネシア、メラネシア、ポリネシアおよびそれらの周辺地域を含むものとし、センターはこの海域の自然、社会、文化、歴史を含む学問の全領域について学際的な新しい地域研究を旨としている。センターの研究に従事する者はセンター専任の教官のみならず、学内の各学部・教養部から70余名の兼務の教官が任命されており、協力して研究を進行させる体制になっている。このように多数の研究者によって、学問上の広い分野にわたって地域研究の推進を図ることが期待されている。

その成果は『南海研紀要』に相ついで発表されることになる。紀要の名称と巻号は南総研紀要から引きつぎ、ただ名称上では『南総研紀要』から『南海研紀要』へと変更されている。英文名称の変更はない。第1巻は1号のみで終わったが、第2巻からは年2号以上の出版を予定している。この紀要はセンター教官、兼務教官および研究に協力する学内外研究者にも開かれており、多方面にわたる論文が掲載されることになっている。

『南海研紀要』がこれからますます充実され、将来世界でこの分野の研究で重きをなすように発展することを期している。